夢みることも基金だより

No. 1

平成8年
9月1日

発行：夢みることも基金事務局

〒810 福岡市中央区赤坂1-12-6赤坂Sビル2F ☎092-751-0021 FAX092-751-0249

'96 阿蘇こどもみどり村開く
筋ジスの子らバンド演奏

筋ジス少年バンド、こども会議のメンバー…。「阿蘇こどもみどり村」は雄大な阿蘇五岳の前で開かれ、出会いと感動があった。

歯の金属冠リサイクルで、こどもたちの夢をかなえよう―。全国の心ある歯医者さんたちを中心に展開している「夢みることもキャンペーン」は七月二十五日―二十七日、熊本県久木野村で第二回こどもの夢「阿蘇こどもみどり村」を開きました。国内最大の野外ステージ、アスペクタでは全国で初めて難病の筋ジストロフィーの少年バンドの合同コンサートを行い、アグネス・チャン理事も一緒に歌いました。会場いっぱいに感動があふれました。

アグネスも参加

「阿蘇こどもみどり村」は第二回こどもの夢募集(一月)で、千五百九十二点の中から最優秀賞になった神奈川県綾瀬市・北の台中三年、大多和淑美さんの夢が“タネ”です。同じく上位入賞したこどもたちの集まり(こども会議、三月)で肉付けして育て「自然を大切に、体の不自由な子も楽しめる村づくり」が実現しました。

夢みるこども基金理事長
日本歯科医師会会長
中原　爽

患者さんの義歯再生で不要になった金属冠の集積が、21世紀を担うこどもたちの夢をはぐくみ、阪神大震災で両親をなくしたこどもたち、難病、筋ジストロフィーと闘うこどもたちの心に明りをともす――。

一九九四年二月、歯の金属冠リサイクルでこどもたちの夢をかなえようと、福岡で産声をあげた「夢みるこどもキャンペーン」は二年半を経過し、大きく輪を広げ始めました。すでに二回、こどもたちからかなえたい夢を全国公募し、活発な「こども会議」を経て、第一回は阪神大震災の子をはげます「阿蘇こども出会いの里」、第二回は筋ジストロフィーの少年バンドのコンサートを中心に「阿蘇こどもみどり村」を実現してきました。参加したこどもたちからは感動の便りが事務局に届いています。

不要になった金属冠を回収・再生し、浄財で「こどもたちの夢の応援団」になろうという趣旨に賛同し、キャンペーンに協力している歯科医院はすでに千三百を超え、さらに増えていることはうれしい限りです。全国で一万の協力歯科医院を得ることが、当面の目標です。

善意が次の善意を呼ぶ形で、さらに多くの歯科医師の先生方にこのキャンペーンの輪に加わって頂き、次の世代を生きるこどもたちの明るい未来に役立ちたいと思います。

ボクはもっと大きな人間になりたい

会場は昨夏、第一回こどもの夢「阿蘇こども出会いの里」で舞台となった久木野村です。二十五日、北は青森・山形、南は鹿児島と全国各地から小学四年～中学三年のこども会議のメンバー十八人、熊本、大分、宮崎から筋ジスの少年バンドら二十六人がやってきました。ホームステイ先の阿蘇の子が笑顔で迎えてくれました。

村内の日本国際童謡館前に、キャンペーンのマスコット・キャラクター「歯ミングはっクン」がほほえむ夢みるこども基金の旗を掲げ、開会。アグネス・チャンさんが身重をおして参加し、こどもたちとの出会いを喜びました。

車いす講習会、凧づくり、バーベキュー・パーティーがおわり、いよいよ、筋ジス少年たちが夢みたアスペクタでのジョイント・コンサートが始まりました。ザ・パッションズ(宮崎県)、リーアライズ(大分県)、ミラクルボーイズ(熊本県)、が次々にステージへ。アグネス・チャンさんもギターの弾き語りを聞かせてくれました。ビートルズ・ナンバー、オリジナル曲など、懸命に演奏する姿はまさに、いのちの輝きでした。少年の一人がつぶやきました。「きょうはありがとう。これから、僕はもっとおおきな人間になりたい」。打ち上がる二百五十発の花火の陰で、こどもも大人も涙をぬぐいました。

二日目は村内の史跡公園でヤマメのつかみ取りと大きな木板に寄せ書きし、記念植樹。最終日、阿蘇こども宣言を出しました。帰路につくこどもたちの心の中に、豊かな「みどり村」ができていました。

筋ジス少年バンドの夢

今回の「みどり村」で念願の夢を果たしたのは難病、筋ジストロフィーと闘う患者さんのバンドです。「アスペクタという大舞台で、筋ジスの仲間のバンドやアグネス・チャンさんとジョイントコンサートをやりたい」という願いがかなったわけです。メンバーは中高校生が中心ですが、高卒のお兄さんたちもいます。平均年齢は十代後半です。みんな筋ジス専門病棟で寝起きをともにし、隣接の学校で勉強に励んでいます。

バンド名には彼らの願いが込められています。熊本県西合志町、国立療養所再春荘病院のミラクルボーイズ(十五人)は「奇蹟を起こしたい」、大分県別府市、同西別府病院のリーアライズ(四人)は「実現したい」。宮崎市、同宮崎東病院のザ・パッションズ(八人)は「情熱」ですが「受難」という意味もあるそうです。今、全国約三十か所の筋ジス病棟にバンド結成が相次いでいます。

アスペクタでの筋ジス少年バンドのジョイントコンサートには、アグネス・チャンさんも出演。

2年連続、南阿蘇で開催

キャンペーンでは、こどもの夢を毎年、全国のこどもから募集し、かなえていますが、第一回の「阿蘇こども出会いの里」に次いで、第二回の「阿蘇こどもみどり村」も、会場が熊本県・阿蘇の外輪山に囲まれた南阿蘇の久木野村になりました。雄大な大自然の中で夢をはぐくんでほしいという願いからです。第一回、二回とも、久木野村の各十家族がこども会議のメンバーや阪神の震災孤児のホームステイ先となり、温かく迎えてくれました。阿蘇五岳が目の前に広がる村の公園にはキャンペーンの記念樹が育っています。さて、第三回はどこで開催となるのでしょう。それはこどもたちの夢が決めます。

阿蘇こども宣言

平和で緑がいっぱい、障害のある人も自由に参加できる村を作ろう――。夢みるこどもキャンペーンの二回目のイベント、「阿蘇こどもみどり村」はみんなのこんな夢がかなって開村され、全国十八人の「こども会議」のメンバーと阿蘇のこどもたち、筋ジストロフィーの少年バンドが二十五日、久木野村に集いました。

二泊三日のホームステイを中心とした交流の中で私たちは多くのことを感じ、学び、考えました。

熊本、大分、宮崎三県の筋ジストロフィーの少年バンドが夢みていたアスペクタでのジョイント・コンサートは、ハンデを乗り越えるひたむきさ、努力のすばらしさ、命の大切さも教えてくれました。あの顔、あの声、あの演奏。決して忘れることはないでしょう。

「阿蘇こどもみどり村」はきょう終りますが、消え去るわけではありません。阿蘇の雄大な自然、少年バンドとの交流の思い出とともに、私たちの心の中に生き続けるのです。

いま、こどもの数が少ない、こどもの世界が危ない、世の中がヘンだと言われています。そんな時だからこそ、まもなくやってくる二十一世紀に、私たちの心の中にある、この「みどり村」を実現させたいと思います。

一九九六年七月二十七日

夢みるこどもキャンペーン「阿蘇こどもみどり村」に参加した「こども会議」代表、阿蘇のこども代表

―キャンペーン・ソング

アグネス・チャンさんにお願いしてあったキャンペーン・ソングができました。「みどり村」の開会式で、アグネス・チャンさんが「ドント・ストップ・マイ・ドリーム」をミラクルボーイズの演奏で歌い、発表しました。すばらしい歌詞と曲に、早くも「CDにしよう」という声が上がっています。実は、この歌、第一回のこども会議でこどもたちがアイデアをだし、アグネス・チャンさんと交わした約束の実現です。作詞はこどもたちがし、アグネス理事が手直しして、曲をつけました。♪夢とはみんなでかなえるものさ。心合わせてレッツゴー……。軽快な調べの中で、夢を捨てないでと呼びかけています。

「はい、ヤマメ」「うわっ、ありがとう」日焼けした阿蘇の少女からヤマメを取ってもらう筋ジス少年たち。（久木野村の公園で）

大人も交流―涙の反省会

「みどり村」二日目の夜、久木野村の施設でこども会議のメンバーに付き添ってきた父母、こども基金理事、実行委員、久木野村職員、ボランティア、取材関係者ら大人たちが交流会を開きました。前日、筋ジス少年バンドのコンサートがあったばかりで、感動して涙を流す人が続出しました。

コンサートで、失敗にもめげず皿回しを演じた上野武理事(西南学院大教授)の奮闘にも、温かい拍手が送られ、今後もいっそうキャンペーンを充実させていこうと誓いました。「キャンペーンは大人にも夢を見せてくれるんですね」と、ある母親がつぶやいたのが印象的でした。サン・テグジュペリの小説「星の王子さま」にありますよね。「大人も昔、こどもだった」って。

◇事務局に感動の便りが続々

「みどり村」がおわってから、事務局に感動のお便りが続々と届いています。一番手はこども会議のメンバー、兵庫県の井口真衣ちゃん(小五)と付き添いとして参加した母、照子さんからです。「娘は初めてのホームステイ。帰りの車の中で、飛行機の中でよくしゃべること、しゃべること。娘の話を聞きながら、感無量でした」。真衣ちゃんは「たのしくて、いい思い出をありがとうございました。いろんな人に出会えてよかったです」と躍るような字でくれました。筋ジスの子からも来ました。国立療養所宮崎東病院で、ザ・パッションズの見習いの秋山大輔君(中三)です。「取ってもらったヤマメをつかんだらぬるぬるし、食べたら美味しかった。」事務局には手紙が届くたびに、感動が広がっています。

阿蘇こども宣言

平和で緑がいっぱい、障害のある人も自由に参加できる村を作ろう――。夢みるこどもキャンペーンの二回目のイベント、「阿蘇こどもみどり村」はみんなのこんな夢がかなって開村され、全国十八人の「こども会議」のメンバーと阿蘇のこどもたち、筋ジストロフィーの少年バンドが二十五日、久木野村に集いました。

二泊三日のホームステイを中心とした交流の中で私たちは多くのことを感じ、学び、考えました。

熊本、大分、宮崎三県の筋ジストロフィーの少年バンドが夢みていたアスペクタでのジョイント・コンサートは、ハンデを乗り越えるひたむきさ、努力のすばらしさ、命の大切さも教えてくれました。あの顔、あの声、あの演奏。決して忘れることはないでしょう。

「阿蘇こどもみどり村」はきょう終りますが、消え去るわけではありません。阿蘇の雄大な自然、少年バンドとの交流の思い出とともに、私たちの心の中に生き続けるのです。

いま、こどもの数が少ない、こどもの世界が危ない、世の中がヘンだと言われています。そんな時だからこそ、まもなくやってくる二十一世紀に、私たちの心の中にある、この「みどり村」を実現させたいと思います。

一九九六年七月二十七日

夢みるこどもキャンペーン「阿蘇こどもみどり村」に参加した「こども会議」代表、阿蘇のこども代表

―キャンペーン・ソング

アグネス・チャンさんにお願いしてあったキャンペーン・ソングができました。「みどり村」の開会式で、アグネス・チャンさんが「ドント・ストップ・マイ・ドリーム」をミラクルボーイズの演奏で歌い、発表しました。すばらしい歌詞と曲に、早くも「CDにしよう」という声が上がっています。実は、この歌、第一回のこども会議でこどもたちがアイデアをだし、アグネス・チャンさんと交わした約束の実現です。作詞はこどもたちがし、アグネス理事が手直しして、曲をつけました。♪夢とはみんなでかなえるものさ。心合わせてレッツゴー……。軽快な調べの中で、夢を捨てないでと呼びかけています。

「はい、ヤマメ」「うわっ、ありがとう」日焼けした阿蘇の少女からヤマメを取ってもらう筋ジス少年たち。（久木野村の公園で）

大人も交流―涙の反省会

「みどり村」二日目の夜、久木野村の施設でこども会議のメンバーに付き添ってきた父母、こども基金理事、実行委員、久木野村職員、ボランティア、取材関係者ら大人たちが交流会を開きました。前日、筋ジス少年バンドのコンサートがあったばかりで、感動して涙を流す人が続出しました。

コンサートで、失敗にもめげず皿回しを演じた上野武理事（西南学院大教授）の奮闘にも、温かい拍手が送られ、今後もいっそうキャンペーンを充実させていこうと誓いました。「キャンペーンは大人にも夢を見せてくれるんですね」と、ある母親がつぶやいたのが印象的でした。サン・テグジュペリの小説「星の王子さま」にありますよね。「大人も昔、こどもだった」って。

◇事務局に感動の便りが続々

「みどり村」がおわってから、事務局に感動のお便りが続々と届いています。一番手はこども会議のメンバー、兵庫県の井口真衣ちゃん（小五）と付き添いとして参加した母、照子さんからです。「娘は初めてのホームステイ。帰りの車の中で、飛行機の中でよくしゃべること、しゃべること。娘の話を聞きながら、感無量でした」。真衣ちゃんは「たのしくて、いい思い出をありがとうございました。いろんな人に出会えてよかったです」と躍るような字でくれました。筋ジスの子からも来ました。国立療養所宮崎東病院で、ザ・パッションズの見習いの秋山大輔君（中三）です。「取ってもらったヤマメをつかんだらぬるぬるし、食べたら美味しかった。」事務局には手紙が届くたびに、感動が広がっています。

夢みるこども基金理事
アグネス・チャン

こどもたちの幸せを願うのは、大人の共通の思いです。現代に生きるこどもたちに欠けているものは「夢みる心」ではないでしょうか。夢みるこどもキャンペーンは「こどもたちに夢を――」を合言葉にスタートし、もう三年目になります。歯科医師、社会部記者、協賛企業などを中心に始まりましたが、大勢の皆さまの上に翼を広げ、協力者が相次いでいます。

キャンペーンは「金属冠をリサイクルさせ、こどもの夢づくりに役立てよう」という訳ですから、特に歯科医師の皆さまからのご協力が欠かせません。さらに多くの人々の善意によって、こどもたちに夢みるチャンスと、夢を実現させる勇気と、夢を追いかける楽しさを提供することがキャンペーンの目的です。

第一回のこども会議で決められた「こどもの夢」は、阪神大震災で親を亡くしたこどもたちと一緒に思いっきり遊びたいというものでした。

第二回の「こどもの夢」は緑を大切にし、人にやさしい村づくりをテーマに、筋ジストロフィーの少年バンドと野外コンサートをしました。私は二年続けて、こどもたちと参加しましたが、会場となった阿蘇に集まったこどもたちの目の中の輝きは今でも忘れられません。

一人でも多くのこどもたちの目に輝きを、心に希望を――と願って、私も全力を尽くします。歯科医師を始め、皆さまにもご支援をよろしくお願い致します。

業界紙 タウン紙 基金をバックアップ

基金活動については、これまでに各業界紙や生活新聞などで紹介されています。

今夏のイベント「阿蘇こどもみどり村」(七月二十五日～二十七日)を掲載した日本歯科新聞(八月六日付)が、八月上旬にさっそく事務局に届きました。同新聞編集部の記者、水野麻由子さんが筋ジストロフィーの子どもによるコンサートを中心に密着取材をしました。

同新聞は、昨年の阿蘇イベント記事も掲載(五月二十八日付)、マスコットキャラクターの「はっくん」も登場しました。掲載後の反響は大きく、全国の歯科医院から「ぜひ協力したい」との電話やFAXが次々と寄せられました。中には「医院が移転したのを機に、いいことをどんどんしていきたい」と書かれたうれしいはがきもありました。

一方、日本通運東京本社の広報担当・寺西礼男さんも取材に訪れ、社報九月号に掲載されました。

またふくおか共済発行の「ピースランド」七月号では「ボランティア入門」コーナーで紹介されました昨年の活動のほか現在の回収状況、回収方法などもくわしく説明されています。

「新聞クイント」(クインテッセンス出版発行)には七月十日号に掲載されました。同社は歯科専門の新聞や雑誌を発行しており、「今後もキャンペーンの活動を追っていきたい」といっています。

このほか、キャンペーンに協賛いただいている日本航空の広報誌などでもPRされる予定です。

この木のようにまっすぐに伸びて行こう。記念植樹するこどもたち。(阿蘇・久木野村で)

事務局移転

事務局が読売福岡ビルから、すぐ近くの福岡市中央区赤坂1－12－6、赤坂Sビル2Fに移転しました。地下鉄赤坂駅下車、2番出口より徒歩3分。バスは赤坂読売新聞前で下車。

電話 092 751－0021
FAX 092 751－0249